

C-18 体格と衣服寸法についての意識調査

京都女大家政 山名信子

相愛女子短大 ○中野慎子

目的：衣服を購入する際の程度体格を認識して身体寸法と衣服寸法の関連を考慮し既製服を選んでゐるか。若年層と中年層を対象に比較調査を行なつた。

方法：1975年11月～12月にかけて、大学・短大の裾服科学生、年令18才～23才、697名（若年層）と、主婦、年令40才～55才、217名（中年層）を対象に質問紙を配布し回答を求め、身体寸法の認識度、現在の寸法と理想の寸法の比較、体格指数と体格意識、胸部形態の意識等の調査を行ない体格と衣服寸法の関連について検討した。

結果：身体寸法に対する認識度は中年層より若年層の方が高く、若年層は身長に関心があり、中年層では体重に関心を示している。体格指数と体格意識については、ローレル指数の文士5の中に若年層で太いと意識している人が約30%で細いと意識している人が約6%を示し、中年層では太いが約10%で細いが約8%である。胸部形態についての意識は、若年層ではすん胴が約37%、くびれ型約33%であり、中年層ではすん胴が約49%、くびれ型が約21%である。しかし、胸囲-胸囲と腰囲-胸囲の形態から判定すると意識との相違がみられる。体格と既製服寸法の実態については、号数別に身体寸法の範囲とみると最大と最小の幅が大きい。これらは、個人の着衣感や号数の基準の違い等によるものと考察される。衣服の適合度では、若年層では約5%、中年層では約17%の人が不適合だと答え、とこかの部分に不適合さを感じる人が約70%をしめている。9号、11号の体型の人は適合度が高く、7号、13号、15号、17号になるほど不適合者の割合は高い。